

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第30回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2012年10月29日 (月) 13:30~16:00

2. 場所 日本原子力技術協会 A・B会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)

(出席委員) 柳原主査, 近江幹事, 武部(~15:30), 大塚, 目黒, 小畑, 坂下, 柏木, 七田, 金子(14:00~), 脇, 原, 大浦, 横田, 遠藤 (15名)

(欠席委員) 岡本副主査(1名)

(代理委員) 千田 (伊藤代理) (1名)

(常時参加者) 北島, 花畑, 松本, 満田, 井上, 都筑, 小足, 水井, 天澤(9名)

(欠席常時参加者) 藤井, 中山, 菊池, 木原, 上西 (5名)

(傍聴) 森山 (1名)

4. 配付資料

F9Ph2SC30-1 第29回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案

F9Ph2SC30-2 「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法」標準案のご意見及びコメント対応案

F9Ph2SC30-3 「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20〇〇(案)」(中間報告版)

F9Ph2SC30-4-1 【中間報告】「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)」について

F9Ph2SC30-4-2 中間報告(概要)「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)」

F9Ph2SC30-5 「LLW 廃棄体等製作・管理分科会」の予定案

F9Ph2SC30 参考1 原子燃料サイクル専門部会活動状況

F9Ph2SC30 参考2 標準委員会の活動状況

5. 議事

(1) 出席委員の確認

遠藤委員から, 開始時に千田委員(伊藤委員代理)の出席を含め15名の委員の出席があり, 分科会成立に必要な委員数(12名以上)を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録(案)の確認(F9Ph2SC30-1)

遠藤委員から, 第29回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録(案)が紹介され, 承認された。

(3) 「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法」標準案のコメント対応について

原委員, 柏木委員より, F9Ph2SC30-2 及び F9Ph2SC30-3 を用い, 前回の第29回分科会後に各委

員から頂いた標準案に対するコメントに対する対応案、及びその他の修正点についての説明がなされた。主な意見は次のとおり。

- この標準案では、“…係わる…”を“…係る…”に統一することとしているが、「まえがき」で、既に標準発行されている標準タイトルは、“…係わる…”となっているので、これまで変えはならない。
⇒発行済標準名のとおり修正する。
- 附属書 B の表 B.5 と表 B.6 の出典元を明らかにしておいた方がよい。
⇒附属書 B の表 B.5 と表 B.6 は、B.4 項に記載しているとおりに附属書 A のデータと呼び込んでおり、附属書 A のデータは出典元を参考文献として示しているため、表 B.5 と表 B.6 の出典元は明らかになっている。
- 附属書 D の D.2.1 a)～f)のコメント対応について、技術基準と技術要件が混在しているように思われる。
⇒技術基準と技術要件を明確にした記載内容に見直す。
- D.2.1 a)～f)の記載文が、“…こと”となっているが、“…こと”止めは用いないこととしているのではないのか。
⇒法規から持ってきている場合は、そのまま使用すること適切であるが、その他の“…こと”は用いない基本方針とする。
- 表 N.3 廃棄体タイプの概要で、L1-C の C を Closing と Containment と両者並記しているが、問題ないか。
⇒L1-C タイプ廃棄体には、Closing (密閉) の意味と Containment (封入) の両者の意味があり、両者とも頭文字が C であることから、このように両者とも並記している。
- この標準の中で、指数数値の記載方法で、例えば 1.0×10^5 と $1.0 \times 10^{+5}$ のような記載が混在している統一した方がよい。
⇒ $10^{\pm 0}$ は 10^0 に、 $1.0 \times 10^{+5}$ は 1.0×10^5 のように、+や±は記載しない方向で統一修正する。
- 附属書 G の表 G.13 内の記載に文字化けがある。
⇒“0”が文字化けしたものであり、また、表線の太さが違っているので合わせて修正する。
- 附属書 H のみ、フッターにページ番号が記載されているページがいくつかあるが、誤記か。
⇒誤記であり、削除する。ただし、解説には、JIS に従い、全体ページ番号に加えて、フッターにも解説のみのページ番号(解 1 など)を記載している。

(4) 【中間報告】「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)」について

1) 【中間報告】「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法(案)」について

遠藤委員より、F9Ph2SC30-4-1 を用いて制定の趣旨、標準項目案、検討工程などの説明がなされ、特に、意見、コメントなどはなかった。

2) 中間報告(概要)について

遠藤委員より、F9Ph2SC30-4-2 の PPT 資料を用いて、中間報告(概要)についての説明がなされた。主な意見は次のとおり。

- p1 表中の埋施設欄で、埋設深度の記載で誤解を招くことはないか、F9Ph2SC30-4-1 では、“地

表から深さ五十メートル以深の深さ”の記載があり、標準案のまえがきでは、“地表から深さ 50m 以上の地下”となっている。これらと整合を図るべきではないか。

⇒記載方法を検討し、見直す。

- ・ p5 廃棄体種類の概要に、今回新たに決めた廃棄体タイプ (L1-C など) を、標準案の附属書 N の表 N.3 と同じように示した方が良いのではないか。⇒記載する。
- ・ p8 の表題で“WES7901 から要求される検査”としているが、WES7901 に基づいて、この標準で規定している検査として記載した方が良くないか。⇒検討する。
- ・ p9 技術基準から要求される検査項目で、標準案に整合させ“著しい破損”は、“廃棄体の外観”に修正する。
- ・ 全体的な構成と部分的な説明の繋がりが飛んでおり解かり難いため、順番を整理して説明した方がよい。例えば、p6→p11→p7→p10→p8→p9 のように並び替える。
⇒説明のし易さを考慮して見直す。
- ・ p11 上段の表題で、基本要件、管理項目、廃棄対製作段階の区分けが無く分かり難い。
⇒解かり易くなるように修正する。
- ・ p12 法規欄で、“第六条第 2 項第四号”は誤記であり、“第八条第 2 項第四号”に修正する。

上記の審議の結果を反映し、説明者が説明し易いように直し、原子燃料サイクル専門部会、標準委員会へ中間報告することが了承された。

(5) 分科会の今後の予定について

近江幹事より、F9Ph2SC30-5 を用いて、次回以降の分科会の進め方についての説明がなされ、提示されたスケジュールで、審議を進めることで承認された。また、次回（第 31 回）は、原子燃料サイクル専門部会、標準委員会へ中間報告のコメント反映確認と、「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法」標準案の本報告案について、審議を行うこととした。

6. その他

次回分科会の開催時期は、別途調整することとなった。

以 上